

リベリア及びシエラレオネ国内におけるエボラ出血熱に関するお知らせ

平成 26 年 7 月 23 日

1 各国の状況

(1) リベリア

7月18日付けWHOの発表では、同15日から17日の間に、合計22人の新規感染例（死亡10例を含む）が報告されました。なお、同17日付WHOの発表では、リベリアにおけるエボラ出血熱の疑い例を含む感染者数は死亡116人を含む196人（感染確定：76人、可能性例：56人、疑い例：64人）です。なお、UNICEFによると、同21日現在、エボラ出血熱患者の発生が確認されているのは、ボミ県、ボン県、ロファ県、マルギビ県、モンセラード県（首都モンロビア含む）及びニンバ県です。

(2) シエラレオネ

7月18日付けWHOの発表では、同15日から17日の間に、合計45人の新規感染例（死亡9例を含む）が報告されました。なお、同17日付WHOの発表では、シエラレオネにおけるエボラ出血熱の疑い例を含む感染者数は死亡206人を含む442人（感染確定：368人、可能性例：48人、疑い例：26人）です。なお、CDCによると、同17日現在、エボラ出血熱患者の発生が確認されているのは、カイラフン県、カンビア県、ポートロコ県、ケネマ県、ボ県及び西県（首都フリータウン含む）です。

2 エボラ出血熱とは

- ・エボラウイルスによる感染症です。
- ・潜伏期は2～21日程度であり、発症は突発的で進行が早いとされています。
- ・インフルエンザ同様の症状が進行し、重篤化します。
- ・発熱、頭痛、腹痛、咽頭痛、筋肉痛、胸部痛、出血（吐血、口腔歯肉、消化管）などの症状が起こります。
- ・治療は対症療法のみであり、感染予防のためのワクチンはありません。
- ・エボラウイルス感染症の患者・遺体・動物の血液・体液に直接接触すると感染します
- ・空気感染はないとされています

3 感染予防について

エボラウイルスの感染力は決して強くありません。熱や乾燥に弱く、未発熱の潜伏期間中は他人に感染しません。については、以下のような適切な対策をとることで、感染の可能性を下げることが可能です。

- (1) 頻回の適切な手洗いを励行
- (2) 衣類の洗剤や漂白剤による洗濯・乾燥
- (3) エボラ（疑い含む）の患者・遺体・動物の血液・体液に直接接触しないこと

4 エボラ出血熱を疑ったら

患者発生地域への渡航、又はエボラ出血熱に感染した疑いのある患者・遺体・動物の血液・体液等に接触した方で発熱、頭痛、下痢、全身倦怠感等の症状を感じる方はすぐに地域の病院へ相談して下さい。その後は不要な外出は控える等、病院からの指示に従って下さい

(当館注)

患者数等の情報は随時変更されますのでエボラウイルスに関する最新の情報につきましては、WHO (<http://www.afro.who.int/en/clusters-a-programmes/dpc/epidemic-a-pandemic-alert-and-response/outbreak-news.html>) ならびに CDC (<http://www.cdc.gov/vhf/ebola/index.html>) のホームページを御参考にしてください。

以上